

日本精鋳

微細金属粉、生産を倍増

つくば工場稼働率5割超へ

日本精鋳は、100%子会社・日本アトマイス加工(本社)千葉県野田市、佐藤正勝社長)のつくば工場(茨城県牛久市)で、2015年3月期、銅や貴金属などの高機能微粉末金属粉の生産を年1

50%超に倍増する。本社野田工場からの移管を進め、稼働率を現在の2割程度から5割超に引き上げる。モバイル機器向け電子材料の需要増を背景に、使用される微粉末金属粉の生産性を向上し、収

益力強化を図る。つくば工場は、電子部品向け微粉末金属粉を専門に製造する。中でも、最小直径10μmという銅や貴金属の超微細金属粉に力を入れる。12年春に稼働を開始

したが、品質要求が高い電子材料分野はユーザーの材料認定に時間がかかり、本社野田工場からの本格生産移管にはまだ至っていない。野田工場は現在フル生産体制。つくば工場



稼働率を引き上げるつくば工場

の本年度上半期の稼働率は製品生産能力に対して2割程度だが、来年度には5割超まで引き上げ、年産150万

化、製品の酸化防止などの技術開発を進める。超微細金属粉は付加価値が高く、歩留まりが向上すれば利益に

超を目標に掲げる。最新鋭の専用工場であるつくば工場に移管が進めば、生産性が向上する。同時に、不良率の低減や粉末の選別工程の効率

大きく貢献する(木嶋正憲・日本精鋳社長)。銅や貴金属の超微細金属粉は積層セラミックスコンデンサー(MLC)やセラミック基板に使われる。これらの電子材料はスマートフォンなどのモバイル機器向けに需要が増えている。日本精鋳が発表した14年3月期の中間決算では、超微細粉末を含めた微粉末金属粉の本年度上半期販売量は前年比22.1%増の373万となった。